夕刊
新京日日新聞
定價 一部三錢 一ヶ月金八十錢 郵稅一ヶ月金五十錢
新京永樂町四丁目一番地 新京日日新聞社 發行所 電話二三五・二三〇〇番
發行人 十河忠男 編輯人 松本啓二 印刷人 谷

三港の中では羅津が有望だ
林滿鐵總裁車中談

【大連廿日發國通】去る十三日大連出發滿鐵の北鮮鐵道委任經營に先立ち北鮮地方の視察を行ひ、歸途京城で宇垣總督と會見北鐵經營に就て接衝をなした林總裁は二十二日午後七時五十分山西理事、西脇秘書を帶同歸連したが車中左の如く語る

羅津、清津、雄基と一通り見て來た、三ケ所共景色もよいし、港灣施設を施せば立派な港となろう

その中でも北滿物資の呑吐港としては羅津が一番有望だ西側に山を控へ、海は深いし申分ない港が出來ると思ふ、雄基もよいが少し規模が小さい、羅津に滿鐵關係者が五百人居る位で清津雄基も現在は人家も少ないから港灣市街計畫等も充分思ふ通りの施設が出來やう京城では總督、總監と會つてよろしくと依頼して置いたから村上理事が又行つて細目的折衝を行ふだらうお互ひに算盤持つての折衝だからそう急には行かぬ、二十四日重役會を開き、今後の對策を協議する、私の上京は來月にならねと決らぬ

北寧線沿道住民
歡喜を以て丁强軍を迎ふ
山海關歸來者は語る

【山海關廿二日發國通】北寧線に沿つて破竹の勢で前進中の丁强軍の現狀を見て二十一日夜半當地に歸來した某氏の談によれば、丁强軍は十四日石門の敵を驅逐し更に急追を開始したが、敵は灤河の大鐵橋を爆破して逃早く退却したので之を全滅するに至らず、遂に長蛇を逸したが欒州附近の追擊戰では敵に相當の損害を與へた

右鐵橋の破壞は中央部最も甚しく、ほか數ケ所を爆破したもので、これが修理は相當困難である

十五日丁强軍は水深き灤河の濁流を渡り進軍同日午後二時沽治に到着十七日に勇躍唐山に進擊、之を確實に占領し、目下丁强軍の第一線は唐山西南方三里の胥各庄に出で天津まで殘すところは僅かに十七里全軍の士氣大いに上つてゐる唐山、開平は同軍の手に依り完全に治安保たれ各工場は悉く煙を吐き、市内の取引き全く平常通りなのは感心した丁總司令が白馬に跨がり、大三角旗を掲げて十九日唐山に向つた際は、開欒礦務局よりモーターカーが出迎へのため廻され、市民の大歡迎裡に唐山に乘込んだのは見物であつた、同地には唐山新聞と云ふ新聞があるが、支那軍を逆賊として取扱つてゐるのも面白い

自分等は歸途灤州、昌黎、撫寧を視察したが縣長、公安局長等は丁强軍に依り保護されて居り、各縣には治安維持會が組織され、昌黎にある欒東警備司令部で之を統轄して居り、今や欒東の治安は一に丁强の手に維持され民衆は多年の軍閥の支配から離れて、歡喜に滿ち「灤東は丁强の手に依り治めざるべからず」と語る有識者もあつた

塘沽以西の北寧線不通

【天津二十二日發國通】北寧線方面の滿洲國軍並に杜毅、李甲三の進出に蘆臺方面は大混亂に陥り遂に本朝來北寧線塘沽以西は全く不通となつた

灤河水運漸次恢復

【錦州廿二日發國通】當地に着した情報によれば皇軍灤河以東附近一帶の住民は漸く安心し暫く杜絕されてゐた灤河水運は漸く恢復河岸の住民は目下盛んに小舟の製作を急いでゐるが何れ近くこれが完成を見、灤河水運の隆盛は平和の昔に還へることとならう

日本政府の對露回答
太田大使宛二十二日發送

【東京廿二日發國通】東鐵問題で四月十六日カラハン次長から提出された覺書に對して内田外相は在蘇大使館に紛爭の眞相を調査させてゐたが、兩三日前調査報告書が出揃つたので、これを基礎とし回答案を作成、二十二日午後五時太田駐露大使宛發送した右回答はモスクワ大使館で飜譯、二十四日頃カラハン次長に手交これと同時に發表の筈である

帝國代表シカゴ着

【シカゴ二十二日發國通】石井、深井兩代表一行は二十一日當地に到着近く開催されるシカゴ大博覽會場を視察した

現業員事務打合せ會
明日大連協和會館で開催

【大連廿二日發國通】滿鐵では廿三日大連協和會館に於て全線主要驛各係、助役を召集し現業事務打合會を開催するが重點は各十要驛提出の社員待遇關係、業務關係、運轉關係等特に待遇關係に於ては雇員の俸給を月俸とされたき件等下級社員の待遇改善の切實な要求が提出されてゐる

食糧難から
ボルジヤに暴動勃發說

【ハルビン二十二日發國通】一兩日前ボルジヤ方面より滿洲國に逃亡し來つた露人の情報によれば最近バイカル地方一帶の住民は極度に逼迫せる食糧難、生活苦に耐へ切れず暴動勃發の氣配濃厚だと、これに對し赤衞軍は連日の如くボルジヤ驛附近に於いて時々演習行軍等の擧に出で土民の暴動防止のため威嚇をこころみてゐる

政友會の日滿統制委員會

【東京廿二日發國通】政友會は廿二日午後一時半より本部に於て日滿統制委員會を開き今後の調査方針を

一、産業及關稅問題
二、航空通信問題
三、金融、貨幣問題
四、移民問題

の四項に分ち、夫々委員を擧げて調査研究を進める事とし午後四時散會した

秩父宮殿下を日本學術振興會總裁に

【東京廿二日發國通】畏き邊りより學術振興の思召で御内帑金百五十萬圓を御下賜の御沙汰を拜して、昨冬成立を告げた日本學術振興會では齋藤首相が會長に一木前宮相が評議員會會長に櫻井帝國學士院院長が理事長に就任、現下の非常時に際し學術的見地から活動をなすべく着々準備を進めて來たが、今回特に御聖旨に副ひ奉まつる趣旨を以て秩父宮殿下を總裁に奉戴する事となり、二十二日午前十一時半丸の内工業倶樂部で盛大に其の奉戴式を擧行した、同會では齋藤會長以下各役員並に倉富樞府議長、荒木陸相大角海相、山本内相、後藤農相、南遞相、永井拓相及湯淺宮相其他朝野の名士約三百名、同十一時迄に式場に參着、總裁宮殿下の御參着をお待ちたし秩父宮殿下には十一時二十分式場に御臺臨、優渥なる令旨を賜はり、齋藤會長恭しく之に奉答し、終つて正午食堂に殿下御臺臨の下に午餐會を催した

展望臺（一）
ルーズヴエルト大統領の聲明書

米國ルーズヴエルト大統領は十六日各國元首に宛て世界平和の確立强調に關する聲明書なるものを發送された。この聲明書を目して外交評論家は「ルーズヴエルト、ドクトリンの公開」と評してゐる

聲明書の内容は未だ公式に發表されないが、その概要は

一、平和促進に對する條約を確立せんがためマクドナルド英首相の協議に係る軍縮案を採擇する事
一、之等の手段を助長するため協議に關する會合の時と場所について協定を作る事
一、如何なる國家と雖もその軍備を擴張せざる旨の協定を作る事
一、總ての國家はその性質の如何を問はず、國境を越へて武裝兵力を派遣せざることを誓約すること

以上の主要項目から構成されてゐる

本聲明は被侵略國に對し民裝援助は行はざるも、中立權に對するアメリカの傳統的態度の放棄を意味するものと早くも解釋されてゐる。而して本聲明は獨逸宰相ヒツトラーの侵略的外交策を牽制せんための米、佛英三國の總意を體して發せられたものであるとの說も行はれてゐる。孰れにもせよ刻下の事態に於て吾々の問題の對照となるのは最後の一項則ち「總ての國家はその性質を問はず國境を越えて武裝兵力を派遣せざることを……」云々の點である吾々はル大統領と宋支那代表との會見の結果、この一項が記錄されたとは如何にしても信じ得られない。他方、軍は現在直錄の平原に展開され反擊作戰を持續してゐる事態は明かにル大統領の聲明に抵觸してゐるしかしル大統領の聲明が極東の特殊事態に一顧の考慮だに拂はれてゐないことは事實であろ。同時に、今や支那をして翻然その對日策の誤れるを痛感せしめ、從來の態度を改めしめんとする矢先に於て、ル大統領が斯る聲明を發して「以夷制夷」を傳統的外交とする支那にまたも小さな支援を與へたことを遺憾とせざるを得ない。

我が外務當局は該聲明書に對し愼重なる態度を以て之に答ふべく既にその意向も決した。而して問題の最後の項目に對しては「武裝兵力を國境を越して派遣せしめないといふル大統領の提唱は歐洲の如き比較的秩序ある國々の間に於ては採用し得んも、極東の如き、特殊的情勢にある地域における軍隊の警察的活動は認めざるを得ないであらう」との趣旨の回答を發するものと傳へられてゐる。

帝國の斯樣な保留付回答に對しアメリカは之を是認するかどうか、眞個の解決は後日に待たねばならない

珠玉を碎く
吉井勇
（高根秀浩畫）
禁無斷上映上演

（五）

送別會（五）

「厭あね、京子さん。默つて頂戴よ」

ちよつと肱で突つ付いてから、鈴子がさう笑ひを含んだ低い聲で言つたので、京子は不圖われに返つたやうにき、返した。

「なあに……どうして默れつて言ふの」

「どうしてつて、あなたはさつきから松本さんの方ばかり見てゐるぢやないの」

「松本さん……」

京子はちよつと解せないやうな瞬きをしてから、

「あゝ、あたし松本さんの方を見てゐたんぢやないわ。あたしの好きな蔦之助さんの顏を見てゐたのよ」

と言ひながら、白くしなやかな指の先で、惡戲をするやうな格好でパンをちぎつた。

二人はそれつきり默つてしまつたが、京子の胸からは、さつき大寶の顏を見た時に感じた、暗くおそろしい不安の影が、何時までたつても消えなかつた。忽然と搔き消すやうに日本から姿をくらましてしまつた彼が、また忽然とその姿を、かうして劇壇文壇を始め、各方面に名ある人々の集まつてゐるところに、現はして來たといふことが、既に彼の女には惡魔の行つた奇蹟のやうに思へた、これから大寶が彼の女に對してどんな態度に出て來るかと言ふことを考へると唯怖ろしくてならなかつた。

京子はぢつと考へ込みながら、唯無意識にナイフやフオオクを動かしてゐた。あれから何だか顏を見るのが怖ろしいやうな氣がして一度も主卓の方へ眼線を送らなかつたのだが、それでも彼の女の目には、額の禿げ上がつた大寶の顏と、やゝ窪み走つた櫻澤の顏とが [illegible] てゐた。

食事が進むにつれて、どのテーブルでも、誰か話の中心になる人が出來て、談笑の聲はだん／＼高くなつていつた。しかし女達ばかりのこのテーブルでは、時々社交的のお世辭や人の噂をし合ふ位のもので、割合に話がはずまなかつた。鈴子ばかりがみんなを相手に

「えゝ、また二の替りには香山さんの藝題が出ますの。何しろ二幕で三時間もかゝるやうな長いもんなんでございませう。もうお稽古であたしへと／＼になつちまひましたわ。毎晩早くつて十二時、遲いと二時頃までお稽古なんでございますもの……。今晩もこれから香山さんのお宅でお稽古があるんですの」

など、言つて、一人で僥舌つてゐた。

やがてデザートコオスに入ると蔦之助の向ひ側にゐた、史劇ばかりを書いてゐる劇作家の山野浩堂が立ち上がつて、簡單に蔦之助に向つて送別の辭を述べた。それが終ると蔦之助も立ち上つて、まるで舞臺の上で臺詞を言つてゐるやうな調子で、それに對する謝辭を述べたが、それも極めて簡單なものであつた。最後に深山侯の音頭取で、一行の人達の健康を祈るために杯を上げた。

宴が終るとみんなはまたぞろぞろと隣りの廣間の方へ戻つていつた、二三杯のビールに顏を赤くしてゐるものもあつて、部屋の空氣は一體にさつきよりも賑やかに話聲も一調子高められてゐた。すぐに踊つてゆくものもあつたが大部分は殘つて食後の閑談に興じてゐた。

京子は何だか大寶と顏を合すのが怖ろしいやうな氣がして、そつと拔け出すやうに廣間を出て、[illegible] 階段を降りていつた。

關東軍、支那駐屯軍相呼應 北平を挾擊の隊勢をとる
狂暴の支那軍に對し最後的膺懲の日
騎虎の勢ひ全支を呑む

（天津二十三日發國通至急報）我が支那駐屯軍宮崎少佐の指揮する○個○隊は本日午前七時天津東停車場發固き決意のもとに北平に向つて堂々出動した

皇軍出動に際し その所信を堂々聲明

北平の我が步哨傷害事件に對し我が駐屯軍は本日午前七時半左の如く重大聲明を發した

我が駐屯軍は條約上の義務を履行し終始公明正大なる態度をもつて隱忍自重本來の任務に服し一點軌外の行動に出ずることなかりしは滿目の見る處歷然たる處なり、然るに二十日北平における步哨傷害事件は支那將校が白晝公然と然かも特殊地域たる交民巷內の我が守備隊正門の步哨を不意に襲擊するに至つては明に帝國駐屯軍に對する侮辱的かつ挑戰的直接行動にして支那側が常軍に對して敵意を有することを證明するものにして軍として絕對に看過し能はざる處これによつて生ずる重大なる結果に對しては全然支那側において責を負はざるべからず　支那駐屯軍司令官陸軍中將中村孝太郞

坂本部隊北方から 一擧に平津を衝かん

（玉田二十二日發國通）坂本部隊は密雲方面の西部隊が漸次南下し來つたので喜峰口、薊運河、三河、北平を貫く主要道路以北の要點は西部隊に委ね、薊運河に沿ふ要地に據り支那軍の反省を待ち、敵に誠意の認むる所なくば一擧に平津の地を衝くべく準備萬端完了した（以上號外再錄）

通州方面の形勢

（錦州廿二日發國通）三河より前進した服部々隊の先鋒部隊は廿一日午前十一時通州東方二里の部落に入つたが本朝來更に西進中で通州入城は本日正午頃と見られてゐる、因に通州は北平東方四里で北平は既に眼前に迫つてゐる

（錦州廿二日發國通）玉田、密雲、北平附近を飛行機で視察し、本日午後二時當地に歸來した河井田少佐の談に依れば通州には既に支那兵の影を認めず、服部々隊の先遣部隊は既に通州城外に迫つてゐる若しこの儘北平をつくとすれば、遲くとも二、三日中には樂に北平に入城出來る譯だ懷柔、北平街道には密雲で敗れた支那兵約五、六千が北平に向け敗走中を發見した

支那側なほも態度を改めず 阪本部隊最後の猛擊に移り驀進す

（玉田廿二日發國通）坂本部隊は欒西地區の敵を薊運河西方地區に擊退したが、敵はなほも態度を改めず蔣介石に對し自ら全軍を統率し失地恢復に當られたしと電請した事實あり、あくまで抗爭態度を示してゐるので坂本部隊は更に進んで桑梓庄、寶坻、三百谷の線に到達、愈々最後の策戰に移るのやむなきに至つた模樣である

川原、鈴木部隊 順義を占據す

（天津廿二日發國通）川原、鈴木兩部隊は懷柔を占據猛進を續け遂に北平北方約六里の順義に迫つた敵は順義を境に一步も後退せじと死者狂の抵抗を續けて居る

服部部隊主力 夏店入城

（玉田二十二日發國通）服部々隊は二十一日正午一部を以て通州東方二里燕郊鎭を奪取間もなく主力は夏店に入城した、敵は殆ど戰はずして北平に向け退却中

歸順の陶純基匪團 滿洲國軍に編入

（ハルピン二十二日發國通）黑龍江省、鶴立崗に於て滿洲國に忠誠を誓つた歸順匪賊陶純基の一行はこの程正規軍に改編され呼蘭に移駐されることになつた

中山書記官の車を停車せしめ危害を加へんとす 支那兵の不法ぶり

（北平廿三日發國通）昨日午前某要人と會談を遂げ、公使館自動車で歸途にあつた中山一等書記官に對し警戒中の支那兵が不法にも武力を以て停車を命じ通行を許さず、氏は通行證を示したるも承知せず支那兵は危害さへ加へんとする氣勢を示したが公安局巡警が驅けつけてようやく事なきを得た

何應欽遂に 英米公使に泣きつく

（天津廿二日發國通）將領會議の結果は遂に日本軍との最後の一戰を爲すに決したが、何應欽は表面已むなく前線將領の意見に贊成せるも日本軍の强硬態度に恐れをなし、全軍に進擊命令を出すと共に楊村に移駐せる中央軍の少數部隊を、津浦滄州に形式的に移駐せしめ、北平に在る英米公使に對し支那側が自發的に軍隊を後退して衝突を回避せるに拘らず、日本側はあくまで攻擊を止めず、些細の步哨事件を口實に挑戰的態度に出て居ると津浦線への同軍の撤退狀況を詳細說明、殊に英米側の仲裁を求めつゝある

汪精衛なほ 强がつて語る

（南京廿二日發國通）汪精衛は廿二日支那記者に對し左の如く語つた

中日妥協說を絕對否定し、妥協はある方面が撒布した空氣にすぎぬ、妥協とは侵略者に悔悟の色ありて初めて語らるべき事で被侵略者はたゞ一分の力があれば一分の抵抗を爲すべきで、前途の成敗の如きは敢て問ふ處でない

天津東停車場 常識外れの 嚴戒

（天津廿二日發國通）十九日夜襲擊されて以來東停車場の警戒は常識外れの嚴重さにて公安局發行の通行證を所持せざる者は絕對に入場を許されず、旅客の不便の如きは殆んど念頭にないといふ亂暴振りである

何、將領會議開催 全軍二十萬の撤退方法協議 兵を北平城內外に集中せん

（北平二十二日發國通）何應欽は二十二日朝居仁堂に北平軍事分會として北平に於ける最後の緊急會議を開き萬福麟以下將領全部出席約二十萬に達する全軍の撤退方法を協議したが、北平城內外のみにて十三萬に達する支那は日本軍の通州入城を機として全部北平に集中するに決し、目下北平城內外は軍隊の移動で上を下への大混亂中である

前線將士主戰論で 積極的抗日に決す 廿二日の在平將領會議に於て

（天津廿二日發國通至急報）進んで日軍と一戰を交ふるか退いて和平の交涉を提議するか平津の危機正に間一髮に迫る、二十二日、何應欽並びに黃郛は朝來宋哲元、龐炳勳、高桂滋以下在平の全將領を召集最後の重大協議をなしたが席上一部將領は

この際和平交涉を提議し、屈服に非ざる程度に於て和平を求むべし

と主張したが前線の將領は悉く起つて猛烈な反對を唱へ

我等は斷じて城下の誓を爲す能はず、現在我等は一時敗退し居るも勝敗尙決する能はず、進んで最後の一戰を交ゆべし

と聲淚共に下る激越な調子で主戰論を主張遂に黃郛も妥協條件を提出する餘地なく遂に日本軍は和平の意なしその意志を計るに平津を占據後に非ざれば和平交涉に應ずる意向なかるべし我等は死力を盡して平津を守り進んで日軍と一戰を交ゆべしといふに將領全体の意見一致何應欽は全軍に對して積極的攻擊の命令を發し我軍も最後の一戰を試みることゝなつた

寢返へりと 丁强軍の挾擊に 何柱國軍四分五裂

（玉田廿二日發國通）何柱國軍は二十日永平に於て兵變を起し、寢返り部隊、何は直屬部隊を率ゐて萬福麟と共に楊村に逃亡、統率者なき同軍は以來灤西、南部をさまよひつゝあつたが、更に丁强軍のため諸所に大打擊を加へられ、今や同軍は四分五裂、僅かに何の手兵を餘すのみとなつた

服部部隊 戰死者廿一名

破竹の如き勢で急進した服部部隊の正面の敵は逐次西方及南方に退却し既に香河、寶坻附近から影をひそめてしまつた、服部部隊の五月十日以來二十二日迄に判明した損害は戰死二十一名戰傷九十九名、合計百二十名である

戰禍北平に及ぶか 天津英字紙論調

（天津廿三日發國通）昨日夕刊の「ノース・チャイナ・デーリー・メール」紙はその社說に於て、去る廿日日本兵營に起りたる所謂北平事件を論じ、その原因が何人に歸するか、夕支那側が事の公使館區域に起りたる關係上何等責任なしと言ひ張り居り、目下日支間の事態の緊張し居る折から殊に停戰交涉說の傳へられ居る矢先、此の事件の勃發に確かにその交涉を頓挫せしむるのみならず、更に事態を複雜化せしむるものであると論じ、よしんば支那側にして謝罪の意を表すとも目下の場合容易に日本側の滿足を得べくもあらず、更に事實調査の上該事件が蔣介石部下の一將校な事判明すれば故意に日本軍に對し侮辱を敢て爲せる事ともなり、この平和の都北平にも戰禍が及ぶのではあるまいかと結んでゐる

住民保護の立場から 山海關、開平間の鐵道を修復

（玉田廿二日發國通）北寧線は事變以來軍用列車の運行は停止狀態にあり更に支那軍は退却に際し同鐵路橋梁を破壞したので、此のまゝ放置すれば北寧線は壞滅の外なく特に唐山、開平の炭坑地帶からの運行杜絕で營業者は大打擊を蒙つて居るので我軍は爆破された橋梁及線路の復舊に努力し、住民保護の立場から山海關、開平間の列車を保護運行せしめる模樣である

北平米公使館 官舍出火

（北平二十三日發國通）今朝四時米國公使館內に出火、レヂャーウッド氏及びベンド氏の官舍は燒失し兩氏は家財全部を灰燼に歸した

高橋藏相遂に留任に決定す
首相との會見で圓滿裡に 政府は聲明書發表

（東京二十二日發國通）高橋藏相は二十二日午後二時半官邸に齋藤首相を訪問二時五十分まで會議したが留任することに決定した

（東京廿二日發國通）藏相留任確定を見たので明日の閣議の諒解を求め政府として齋藤首相の名で正式に藏相の留任及政府は現下の時局に責任を負擔する決意を聲明する筈である

藏相無條件留任に決すと 會見後首相非公式に語る

（東京二十二日發國通）齋藤首相は高橋藏相と會見後記者團に左の如く語つた

未だ公式にお話する時期ではないが、非公式に藏相留任に決つたことをお話しすれば大藏大臣は現下非常時局の重大の際老軀を揭げて留任し、今後一層努力されることになつたので自分としては非常に安心したこの事は二十三日の閣議に報告した上必要に依つては政局不安を一掃すべき何等かのお話しをすることになるかも知れぬ、藏相の留任については何時まで留るとか其他何等の條件も附いてゐないのであつて、これから大いにやらうといふのである

藏相語る

（東京廿二日發國通）齋藤總理と會見の後藏相は次の如く語つた

時局重大の秋である、今直ぐ自分の身体が重職に耐えられない程でないから留任され度いと云はれたので自分ばかり勝手も云へないから、その通りし樣とお答へした總理から西園寺公訪問內容も話に出たが、それはお話出來ない、近く鈴木總裁と會ふつもりだ

四ヶ國條約案 ゼネバで 假調印

（ローマ廿二日發國通）歐州平和確保に關する英、佛、獨、伊四ヶ國條約案は愈々起草終り各國政府の調印を見る段取りだが二十二日先づゼネバで假調印の運びに至る事となつた

人事往來

▲吉川法務官（關東軍法務部）二十二日午後三時三十五分來京
▲大淵理事（滿鐵）二十二日午後四時三十分南行
▲高澤公太郞氏（新京驛長）同上
▲青木信一氏（新京鐵道事務所長）同上
▲大島公正氏（參謀本部新聞班長）二十二日午後七時五十分來京
▲酒井清兵衛氏（吉長吉敦滿鐵代表）同上
▲吉興中將（吉林省警備司令官）二十二日午後九時來京
▲寺田少佐（參謀本部）同上
▲綸野萍少佐（陸軍省兵器廠）二十二日午後十時南行
▲宇佐美寬爾氏（奉天鐵路總局長）二十三日午前八時來京同八時四十分ハルビンへ
▲林少將（大阪造兵廠長）二十三日午前九時南行
▲稚振玉氏（滿洲國參議）二十三日午前九時南行

團體

▲文部省教育視察團二十三名二十二日午後十時奉天へ
▲福岡西南學院生十一名二十三日午後十時奉天へ
▲大分縣竹田中學生五十二名二十三日午後七時五十分來京
▲大分縣日田林工業生七十五名二十三日午前六時四十分來京同午後零時四十分奉天へ
▲福岡補習學校生二十一名二十三日午後零時四十分奉天へ
▲福岡縣教育視察團二十五名二十三日午前八時四十分ハルビンへ
▲關西相撲協會員六十名二十三日午前八時四十分ハルビンへ

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替
倫敦銀塊 [illegible]
同 遠期 [illegible]
紐育銀塊 [illegible]
孟買銀塊 [illegible]
米英爲替 [illegible]
米日爲替 [illegible]
米支爲替 [illegible]
スチール株 [illegible]
アナゴンダ株 [illegible]

▲綿花
●米棉 現物 七月限 九月限 十一月限 一月限 三月限 五月限 [illegible]
●印棉 ブローチ ベンゴール オームラ [illegible]

▲上海票金 昨止 高値 安値 本寄 步値 [illegible]
▲上海日本向 第一回 第二回 第三回 [illegible]
▲上海倫敦向 賣値 買値 [illegible]
▲上海紐育向 賣値 買値 [illegible]

▲大連金鈔票 現物 寄付 近值 步 [illegible]
▲大連上海向 引値 高値 安値 出 [illegible]
▲大連臺台 [illegible]
▲大阪株式 大株 大新 東新 鐘紡 新 [illegible]
▲同短期 [illegible]
▲大連株式 [illegible]
▲大阪三品 當限 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 先限 [illegible]
▲大阪綿花 當限 先限 [illegible]
▲大阪期米 當限 中限 先限 [illegible]
▲橫濱生糸 現物 當限 先限 [illegible]
▲仁川期米 當限 中限 先限 [illegible]
▲神戶豆粕 五月限 六月限 七月限 [illegible]
▲大連特產 ●大豆 受込 五月限 六月限 七月限 八月限 九月限 ●豆粕 現物 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 [illegible]

新京市況

大豆 現物 出來高 [illegible]
高粱 現物 出來高 [illegible]
▲錢鈔（現物） 鈔票對金票 大洋對金票 國幣對金票 洋銀 [illegible]

日の出町の火事は 子供の火遊び

損害十二萬九千六百四十圓 新京署取調べ終る

既報 新京日の出町の出火原因については新京署司法係において嚴重取調べを行つた結果右は日の出町四丁目二番地金淑・(十才)外四名の滿人女兒が品川洋行作業場裏手で遊戯中金淑玉がローマッチ一本を拾ひかべですつて發火せしめこれをカンナくずの中へ投げ込んだので點火、火の燃え移つたのを見て驚いた子供達はその場を逃げ去つたのであるその際作業場で仕事をしてゐた品川洋行の大工が出火を發見消火につとめたが強風のため果さず大事に至つたものである、なほ損害は十二萬九千六百四十圓である

洪外事科長 遺骨 けふ故郷臺灣へ

滿洲里事件の尊き犧牲者たる元民政部警務司外事科長故洪氏の遺骨は、遺族に護られ、廿三日午前九時發「ハト」にて南下故郷臺灣に向つた

市政公署の衛生防疫施設 惡疫流行期を前に

惡疫流行期を前にして市公署衛生科においては種々これが對策を講じつゝあるが、現在既に實施中のもの計畫中のものは左の如くである

一、去る一日より實施中の天然痘豫防種痘は、今日迄種痘者二萬人を數へるのみで廿一日より二週間を延期、これが徹底を期す

一、猩紅熱に對しては、傳單其他で豫防法を數回に亘り宣傳

一、小中學教員に學校衛生を授け學生に特別衛生教育を施す

一、惡疫傳搬の媒介物たる蠅の恐ろしさを小學生に敎へこれが驅除を獎勵する其他

殊勳者賞與 ホルワット事件

過般白系露人に依る反日滿諜報網の探査に當り苦心の末、その全貌を判明せしめた殊勳者左記五氏に對し其功を賞し本日夫々各人に警察賞與が與へられた

民政部警務司督察官(當時外事科長) 阪下德道
首都警察特務科長 江川四郎
警佐 須藤陽一
警佐 井上庄三郎
巡官 中牟田信任

青木、高澤兩氏 大連へ

青木新京鐵道事務所長及高澤新京驛長は二十四日大連で開催される運輸關係の現業主任者打合會及二十五、六日の兩日開かれる構内主任打合會に列席の爲二十二日午後四時三十分新京を大連へ向つた

吉長吉敦線 邦人乘客に注意 一二等車の次の三等車へ

春は逝き暑からず寒からずの旅行季節に入つたので吉敦線は勿論これと接續する國鐵の各線とも乘客は殖へるばかりであるが鐵道局當局はその一面旅客の安全に就いて頻りに頭を惱ましてゐる、第一は傳染病に對する豫防第二は匪賊の豫防である、何分にも多數の旅行者が集散するのであるから萬一の場合に處するに良策が案出されず吉長吉敦線の如きは不取敢左の方法によるやう邦人旅客は注意して欲しいと希望してゐるそれは一、二等車の次に連結しある三等車に邦人だけがだまつて乘りこむこと、それは萬一傳染病患者を發見隔離する場合又萬々一匪賊などが出た場合邦人は決して座視するやうなことは無く何とか對提策を講ずるものと思はれるそんな場合列車の各所に散在するより一ケ所に集團となつた方が力強いものがあるといふのである

京大法學部生 大學死守を叫び立つ

經濟學部も合流す

(京都廿二日發國通)京大法學部學生千八百名は正午から學生大會を開き大學擁護の爲め、死守する旨の聲明を發表した

經濟學部の同好會學生も同時刻に學生大會を開き法學部の學生大會に合流氣勢を揚げ零時半散會した

我國最初の 爆擊射擊場設置

(東京廿二日發國通)陸軍當局では今回靜岡縣濱名郡馬込三の三角州十九萬坪の土地に爆擊用空中射擊場を新設した目下濱松飛行聯隊で試驗的に使用して居るが爆擊射擊場としては我國最初のものである

戰禍を逃れて 樂土滿洲國へ 婦女子の群れ來滿

(大連廿二日發國通)今朝五時大連入港の長平丸で第二回平津地方からの避難民天津の商人餉陞九、婦女子二百名が樂土を求めて來滿

北平、天津方面は今大混亂に陷つて居ます、商人達は全部店を閉鎖し一日も早く日滿軍の來るのを待つて居ます

と語り乍ら夫々親戚知己を頼つて奧地に向つた

瀧川敎授休職 小西總長も處分か

(東京廿二日發國通)瀧川教授問題については、氏が自發的に辭表を提出しさうもないので文部省では分限委員會に附託して休職さする事に決定廿三日の閣議で文相から報告承認を得て直ちに實現を見ゐこれと同時に小西總長にも何等か處分が加へられる筈である

新京驛で 火災見舞挨拶

新京驛では二十二日日出町の大火に際し構内に在つた驛東軍馬糧が燒けたのみ幸ひ他に損害が無かつたが高澤驛長不在のため二十三日服部助役石關貨物主任が各方面へ挨拶に歷訪した

大連の陸上競技に 新京からも選手派遣

大連青年會主催で來る廿八日より大連に於て行はれる第十一次運動會兼第一回都市對抗陸上競技會に、新京より滿人選手若干名を送る事になり、市公署及び體育協會支部にて出場希望者を募つた處四十名の希望者を得たので、本日午後二時より西公園グラウンドに於て、新京豫選をなすが、この成績に依り詮衡の上新京代表選手を決定開催地大連に送る筈である

外國海軍士官の對日偏見に對する是正 (一)

海軍大佐 關根郡平

第一、緒言

一、敢て全部とは云はないが外國の海軍士官中には日本に對して隨分偏見を懷いて居るものがある、名前は舉げないけれども其の中には相當有力な地位に在る者もある、之は特に海軍士官に限つた事ではないが、殊に彼等の間に著しい現象である

二、國內的には何とも言はうと勝手だと言ふかも知れないが、對日偏見を直接他國に影響を及ぼす所の海軍々備擴張の口實に供するに至つては言語同斷である

三、如何に一部のものが偏見を有すればとて、それは直ちに以て該國民全体の與論とはならないことは確かであるけれども、吾々同じ海軍士官としては互に同情と理解を持ち合つて居るのであるから、外國の海軍士官が有する對日偏見を默過する事は情に於て忍びない

四、人種も言語も宗教も將又風俗習慣も違ふことであるから心理も違ふ外國人としては、或は一概的の自己優越感を持つて居るかも知れないけれども、吾人は之を目して公平であるとは斷じて言ひ得ない、天は一視同仁だ、彼等が「日當りよき地」を求むる如く吾人も亦同等の立場を要求する

五、外國海軍士官の對日偏見は隨分範圍が廣く、問題も多岐に亘つて居るので、一々反駁を加へることは煩に堪えないから其の要點を捕へて、吾人の所感を開陳し、彼等の謬見を是正し、併せて反省を促さうと思ふ

第二、條約と自衛權

一、第一に論じなくてはならぬのは「日本が九ケ國條約や不戰條約を破つた」と云ふ非難であるが、如何なる條約でも正當防衛を許さぬものはない筈だ。而も「果して正當防衛であるか否かは當事者が自主的に決定すべきものである」と不戰條約の提唱者ケロッグ氏自ら主張して居るではないか、滿洲や上海における帝國軍の行動を正當防衛に非ずと言ひ得る筈はないのである

今假に滿洲で帝國陸軍が鐵道附屬地外に出なかつたとしたならばどうであつたらう、九月十八日の第一擊で得た形勢の波動を迅速に利用し押詰めなかつたならば、捲土重來する支那軍の爲に劣勢な帝國軍は恐らく全滅の憂目を見たに相違ない、九月十八日以後の行動とても全く自衛に外ならぬ

二、外國人の中には上海で我陸戰隊は如何にも侵略的行動に出てあの大事件を惹起したと非難を浴せるものがあるが、工部局が狼狽して二月二十八日の晚景になつてから戒嚴令を下したが、日本側は危險とは知りつゝ協定に基いて配備に就いた、之は各國も同樣であつて彼我の衝突が起つたのに偶々支那軍が戰鬪準備を整へて、我を待つて居り日本兵の出現を見るや否や發砲したからである日本軍が攻擊した等とは堅白異同の辯である、成る程日本軍は全力を盡して支那軍に抗戰した悲慘な市街戰は續いた、飛行機の爆擊も行はれた、然し乍ら我陸戰隊が負けたならどうであつたらう、米人ダー・ワレン、ヒース氏も論じて居る通り若干の外國人は唯々日本を責めるに急であつて支那軍が勝つた場合のことは少しも考へて居らぬのである

三、諸外國は支那に駐屯軍を置き多數の警備艦を配備して居るのであるが之は事件が起り自民國の生命財産が危險を受けたときに之を保護する爲であらう、保護と云つても萬一の場合軍事行動を採らぬと云ふ譯ではあるまい、若し採らないとすれば何も立派に武裝した駐屯軍や警備艦を必要とする筈がない、それ故に彼等とても滿洲や上海で日本軍が遭遇した所と同一の境遇に置かれたならば屹度軍事行動に出たに相違ないのである、日本を責める理由は毛頭ないではないか

四、要するに日本は滿洲事變や上海事變で軍事行動を採つたけれども自衛に過ぎぬ、決して條約を破つた覺えはない、從つて日本の行動を以て條約の神聖を疑ふが如きは全く[illegible]にするものゝ謬論である

避難の婦女子 安心して還る 各戸に日章旗を揭ぐ

密雲附近に於てもろくも西部隊の爲に擊破された支那軍は其後懷柔から順義北方にある牛欄山を經て通州東北方六里の場各庄の線に陣地を構築し近く中央軍の主力を集めて最後的抵抗を試みるべく準備してゐるが既に我軍の爲に第二十五第八十三師が大打擊を蒙つたのと各師共久しく俸給不渡の爲に士氣が振はぬ模樣である、石匣鎭、密雲間の住民は皇軍の進出に安心して各戸日章旗を揭げ歡迎の意を表してゐる

さきに古北口方面から密雲附近一帶に避難して居る二、三千の婦女子は西部隊に於て保護救恤を加へ二十日古北口に歸還せしめた

土屋高等法院長逝去

(東京廿二日發國通)關東廳高等法院長土屋信民氏は病の爲め東京府下千歲村の自宅で二十一日午後四時十五分逝去した、享年六十二

ラジオ

二十四日(水)新京

奉天前一一、〇五、一一、四〇 講演目覺しき滿洲產業の發展(內地向)大連市長小川順之助
奉天後四、〇〇レコード錢行金銀相場商業通信社
新京後四、三〇演藝
新京後五、〇〇講演東鐵問題に就て協和會員崔世鈞
新京後五、三〇ニュース(滿洲語)
東京後六、〇〇ニュース東京中央放送局編輯
新京後六、二〇演藝又は講演
新京後七、〇〇ニュース(英語)
新京後七、一〇ニュース(露西亞語)
新京後七、二〇ニュース(朝鮮語)
新京後七、三〇ニュース氣象豫報、放送局編輯及プログラム豫告
奉天後八、〇〇謠曲砧岩村櫻所中村久中
東京後八、三〇時報
東京後八、三一ニュース東京中央放送局編輯

けふの銀場

鈔票	金票	一三六〇
大洋	金票	九六三〇
國幣	金票	九九三五
大洋	鈔票	七〇八五

あす午前八時から午後四時まで斷水
水道鐵管修理のため

幕末異聞 愛慾火箭（六十三）

作 瀧川 駿　畫 村瀨 洗舟（上海上映）

大道繪師(十)

崖の端から身を投げたお君は、あつと思ふ瞬間に手は一本の蔦を握つてゐた。そこは丁度出張つた巖の蔭だつた。

『まあ』

お君は不思議に命の助かつた事を奇異に思つて、下を覗いて見た。下には美濃川の激流が流れて、その流れに沿つて一筋の狹い街道のあるのが見えた。

『まあ嬉しい神樣のお助けだ』

斯う思つてゐる時に、下へ向つてする〳〵と辷り降りて行く蜘蛛が巢を傳ふやうに、人影を見て、巖陰へ身を隱した。

と續いて、一人の男が降るやうに落ちて來て川縁の巖角に、頭を擊ちつけて血へどを吐いて死んだ。

先刻降りて行つた男が、急いでかき登つたと思ふと、懸崖を登つた男が美濃川の流れへ水音をたてゝ蹴ち込んだ。

この一瞬間の出來事を、地獄繪を見るやうな怖い氣持で、巖陰で眺めてゐたお君は、靜かに蔦を傳つて街道へ下つて行つた。

×　×　×

お君は眼をつぶつて社殿に額づいてゐると、ありし日の出來事が髣髴と眼に浮んで來て、無精に興四郎が戀しくなつて、止めどなく涙が流れた。

『姐さん泣いてゐるの?』

『泣いてなんかゐるものか、ほら……』

二人は下駄の音を響かして鳥居を潜つて行つた。

この時神樂殿の脇の掃溜の群の蔭が開いて、一人の乞食が現はれた。

乞食にしては餘りにも目立だちの綾ひ過ぎた好男子だつた。

その乞食はぼんやりと出つて行く、親者姿のお君の後を見送つてゐた。

『氣をつけやがれ』

この乞食にぶつ突かつた男。

それは三尺に足らない傴僂男。醜の男だつた。酒にでも醉つてゐると見えて、足許が定まらない。

『あい濟みません。——どうぞ一文』

突き當られて、はつと氣のついたらしい新米乞食は、麵桶の蓋を差し出したが、その手附きのたよりなさ。素人と言ふ事がすぐ判る。

『乞食の癖に、親者に見とれるなんて、洒ちやねえ』

惡口一口を殘して、危ない足取で傴僂の醜は去つて行つた。

傴僂て、菰を被つた新米乞食は消えて行つた親者姿の後を追つた。と名物、九重櫻の玉垣を廻らうとした、この乞食の菰の上から肩の邊をとんと叩いた一人の男がゐた。はつと一瞬乞食の顏色は變つた。

『どうぞ一文……』

その男は、乞食の傍へ歩み寄ると低い聲で——

『御門跡、わたしで御座います。それ、いつかの大道繪師で御座います』

さう言つて、其男は懷中から小錢を取出して麵桶へ入れた。

『おゝ利八……』

はつとして口を噤いだ。

其乞食こそ、一昨日桂川の獄を破つた衛門興四郎だつた。

『一昨日の出來事を聞きましたが、わたし共は、勤王だ佐幕だと言ふのは一種の道樂だと思つてゐましたが、さうでは御座いませんなあ、雲州松江の浪人奉行千石取りの若旦那が、お孤の眞似までなさるとは……』

低い聲で大道繪師、一筆齋利八は斯う言つて目を瞬いた。

興四郎は何も言はず、淋しく頷いた。利八は四邊の人の氣配を覗つて言葉を續けた。

『ね、若旦那、先日お手許まで差し上げて置きました、繪の出來た由來を話したう御座んすから、近い内に夜分でも私の住居千本松原の厄除地藏の傍まで出かけて下さい』

『その繪の本人を今見た!』

『えッ!』

五月廿四日 水曜 舊四月一日 大安 收 參宿

●一白の人　元氣益々加はり家道大に進展す起業開店吉 丙さ亥さ丑が吉
●二黑の人　損失に損失を重ねんさする日焦るべからず 丙さ丁さ辛が吉
●三碧の人　落付を肝要さす下手に動けば臍を噛むべし 甲さ乙さ亥が吉
●四綠の人　着實に本業を守るが安全取引の齟齬に警戒 乙さ申さ亥が吉
●五黃の人　急ぐ旅路の途中にて川止に遭ひたるが如し 丁さ辛さ丑が吉
●六白の人　勇氣にのみ逸りて敵の術中に陷るが如き日 甲さ庚さ寅が吉
●七赤の人　物事志さ反して計畫の齟齬するが如き凶日 乙さ辛さ癸が吉
●八白の人　外出先の失物怪我家内の盜難内外共に注意 丁さ庚さ丑が吉
●九紫の人　次々さ希望の成就する吉日普請造作移轉吉 己さ庚さ亥が吉

范家屯區公示第五號
新京中央區公示第二號

春季清潔方法施行ニ關シ左記ノ通范家屯警察署長ヨリ告示アリタルニ付テハ檢査前日迄ニ遺漏ナク施行セラレタシ

昭和八年五月十八日

新京地方事務所長 荒木 章
南滿洲鐵道株式會社

范家屯警察署告示第三號

管内居住者ハ左記標準ニ依リ檢査前日迄ニ清潔方法ヲ施行シ警察官吏ノ檢査ヲ受クヘシ但シ定期日迄ニ施行シ難キ者ハ其ノ事由ヲ具シ當署ノ承認ヲ受クヘシ

昭和八年五月十二日

范家屯警察署長 高橋 重利

清潔方法施行標準

一、住宅又ハ物置等ニ在ル家具其他移動シ得ヘキ物品ハ全部交通ノ妨害トナラサル屋外ニ搬出シ家屋ノ内外ヲ掃除スヘシ
二、倉庫内ニ格納セル多量ノ物品ハ搬出スルニ及ハスト雖モ窓戸ヲ開放シ通氣射光ヲ圖リ且其ノ内外ヲ掃除スヘシ
三、天井又ハ床下ニシテ其内部ニ出入シ得ヘキ構造ノ家屋ニ在リテハ天井裏又ハ床下ヲモ掃除スヘシ
四、疊敷物寢具類等ハ三時間以上日光ニ曝スコト但日光ノ爲メ褪色ノ虞レアルモノハ蔭乾トナスモ妨ナシ
五、水道栓、井戶、日常食料品置場厨房浴場煙突穴倉地下室塵芥溜下水溜ト水溝厠圊及其ノ附近ハ特ニ叮嚀ニ掃除シ其ノ破損ノ部分ハ之ヲ修理スヘシ
六、家屋物置等ヲ掃除シタル後ハ通風及射光ヲ圖ルヘシ
七、邸宅内ニシテ濕潤ノ場所ハ土砂石炭灰又ハ木灰等ヲ敷キ其ノ乾燥ヲ圖ルヘシ
八、塵芥其ノ他ノ汚物ハ火災ノ虞レナキ場所ニ於テ燒却スルカ又ハ容器ニ納メ若クハ散亂セサル樣集積シ置キ搬出ニ便ナラシムヘシ
九、劇場其ノ他興業場旅館料理店飲食店寄宿舍下宿屋遊戲場店魚菜市場苦力收容所ノ如キ常ニ公衆ノ出入スル場所業態又ハ位置ノ關係上不潔ニ陷リ易キ場所ハ特ニ注意シ叮嚀ニ掃除スヘシ
一〇、前各號ノ外警察官吏ノ特ニ指示シタル事項ハ嚴重ニ勵行スヘシ

清潔法施行月日
五月二十二日（雨天順延）

譯文

范家屯警察署佈告第三號

佈告事照得凡住本署管内各戶須照左開標準於檢査日期之前一日以前施行清潔方法聽候警察官吏之檢査但於所定期日以内碍難奉行者預先情呈報本署須受其認可仰各界人等一體知悉毋照勿違特告

昭和八年五月十二日

范家屯警察署長 高橋 爲

計開

清潔方法施行標準

一、凡在房屋及倉庫内之所有各種傢俱物件及能移動之什物一概搬出於不碍交通之處俟將房屋倉庫之內外掃除淸潔再搬回
二、凡在倉庫內所有多數物件雖不必搬移屋外須門窗開放以通窓氣射入日光
三、天棚床下等處凡能設法打掃務要掃除淸淨
四、蓆子舖蓋衣服等類晒三點鐘以上之時剩惟物件若有減色者不妨背日凉乾
五、水道栓井戶常放存食用之處如厨房浴室煙筒地窖地下室塵芥箱塵芥欄及糞坑下水溝茅厠及其他附近均須注意掃除乾淨倘有損壞之處須加修理整齊
六、房屋倉庫等處一經掃除而後務將門窓開放流通空氣射入日光
七、邸宅內潮濕之處務必撒布土砂煤灰木灰等物舖墊以資乾燥
八、塵芥及其他之廢物等類於無火險之處燒棄或另納器中或堆積不使散亂以便搬運
九、凡如戲園樂子館其他工廠魚菜市場客棧料理店寄宿舍下宿屋及苦力收容所等常多人出入之處或易招不潔之處格外加意掃除潔淨
十、除前各號外特由警察官吏所指示之事項亦須嚴責勵行

淸潔日期 與日文相同

大正九年十二月十四日　第三種郵便物認可

新京日日新聞

定價　一箇月　金一圓八十錢
郵税　一箇月　金十五錢
新京永樂町四丁目一番地
發行所　新京日日新聞社
電話三〇〇番・二五三二番
發行人　十河榮忠
編輯人　松本男
印刷人　谷啓二郎

皇軍の武威ーいよく輝やく

通州市内は大混亂

わが軍猛烈に砲撃

住民續々北平へ向け避難

（天津廿三日發國通）一擧通洲に迫つた我服部々隊は白河を挾んで龐炳勳、高桂滋軍と對峙、之に向つて猛烈なる砲撃を加へつつあり、砲聲殷々として通洲城内に轟き渡つて居る、通洲市内は大混亂に陷り住民は續々北平に避難中である

北平邦人婦女子は

公使館區域に避難

（北平廿三日發國通）北平日本居留民團は廿二日午後四時委員會を開き市内の不安に對する對策を協議の結果希望する婦女子は公使館區域に避難せしむるに決した

何應欽北平脱出

（北平廿三日發國通）確實なる情報に依れば本朝零時何應欽は衛兵二百名を從へ密かに北平を脱出して保定に逃亡せる模樣である

鈴木部隊吊臺を奪取

西部隊に屬する鈴木部隊は本日午前六時三十分懐柔西方にある吊臺の敵陣に對し突撃を敢行し、之を奪取した、又飛行隊は此の攻撃に協力し、懐柔南方にある石廠の敵陣地に對し爆撃を加へた

わが居留民

保護のために

北京增兵につき聲明

（天津二十三日發國通）我が支那駐屯軍は北平增兵に關し本日午前七時半左の如き重要聲明書を發した

北平は目下多數の敗殘兵、避難民が雜踏して日本人の多く在住せる城方面も邦人の住宅附近は悉く支那兵宿泊し

【夜間】巡警は全く其の影を沒し、甚だしきは、邦人の住宅に支那兵の宿泊を强要するあり、辛ふじて治安を維持し居り、一歩を誤まれば掠奪等を避け難き狀態にあり公使館よりは民團委員會の召集要求をし居留民保護に就いて焦慮しつゝあり偶々交民巷内我守備兵に對し無法なる銃撃は更に事態を動搖と極度の不安狀態に陷らしめた狀況右の如くなるを以て駐屯軍は、北平步兵隊の任務達成を

【容易】ならしむる目的を以て

相當の兵力を天津より北平に增加移駐せしむることゝなり該部隊は今廿三日午前七時二十九分天津出發北平に向ひたり

步哨傷害事件に對する

中村司令官の聲明

（天津廿三日發國通）北平における支那將校の我步哨傷害事件に關し、中村駐屯軍司令官は

右の行動は、明らかに駐屯軍に對する侮辱且挑戰的直接行動にして絕對看過する能はず之によつて生ずる結果は、支那で負ふべきだとの聲明を發した

邦人家屋に隱れる

北〇の敗殘兵

（北平廿三日發國通）北平東城の東半分の一帶は敗殘兵充滿し、日本人家屋に入る事を强要してゐるが、彼等は極度に飛行機の爆撃を恐れ日本人家屋に居れば爆撃される危險を免れ得べしと信じ强いて邦人家屋に入らんとしてゐる、無智憐むべきものであるが然りとて抗日心を捨てゝ誠意日本に頼らんとまで決意せるにも非ず單に一時の危險を免れ

何應欽いよく

停戰の重大提議か

中山書記官に會見を申込む

我方も對策協議

（北平二十二日發國通）何應欽は二十二日午後四時我が中山書記官に會見を申込み來つたが、之と同時に何應欽は中山書記官に對して停戰に關し、何事か重大提議を爲したものの如く中山書記官並びに永津駐在武官は目下その對策につき重要協議中である

何應欽代理を派し謝罪

（北平二十三日發國通）昨夜の支那兵の暴行に對し何應欽は代理を中山書記官の許に派し、謝罪の意を示した

北寧線鐵橋

わが軍で修理

山海關、平谷間運轉

（奉天廿三日發國通）北寧沿線は、支那軍が退却の際鐵橋を破壞したので運轉不能となり、沿線住民の旅行及び唐山開平の石炭積出し不可能となつたので、我軍は鐵橋を修理し自發的に山海關、平谷間の列車を運轉せしむることに決定した

敗殘兵を

滄州に輸送

（天津廿三日發國通）楊村、北倉間に集結しつゝある、王以哲、馮福麟の敗殘兵は楊柳青より津浦線にて滄州に輸送されつゝあり

……る爲に日本人住宅を利用せんとする卑劣極まるものなれば邦人は斷乎として拒絕してゐる

支那軍依然

態度を改めず

坂本部隊前進開始

（奉天廿三日發國通）支那軍は依然態度を變へず、何應欽は前線部隊に北平死守を嚴命し、强硬態度を示してゐるので三河、平谷の線の坂本部隊は最後の作戰上已むなきに至り廿二日朝來前進を開始し

我軍の北平肉迫は

戰鬪上の過程

國際問題は決して惹起せぬ

外務省は事態樂觀

（東京二十三日發國通）我軍が北平城外へ肉迫し北支の情勢俄然緊張するに至つたが、右に對し外務省では陸軍側と連絡をとりつゝ北支の情勢展開を

【國際】的影響に對し深甚なる考慮を拂つて居るが、大体次の如き見解の下に飽迄冷靜なる態度を執り事態を樂觀してゐる、北支に對する政府の既定方針は何等變更しないだけでなく

一、長城線の確保

二、右の目的の爲關内に一定距離を有する支那軍の非武裝地帶を設定する

の二條件を達成せすとする外に他意あるものではなく、從つて我軍は一時戰略上の必要から北平近くに進出した處で之は全く日支兩軍の戰鬪上の

【過程】に起つた一時的の現象に過ぎぬ、從つて今後支那側で北支治安維持の爲誠意ある態度を示すに於ては直ちに長城線へ復歸する用意あるものであり、此點は現地における帝國官憲もよく諒解して居る筈であり、國際的の紛糾等全然あり得ざるものと確信して居る

空宣傳には

動かぬ住民達

我軍の駐屯を歡迎

（玉田廿三日發國通）宣傳の國民と自他共に許す支那では、支官多きにも拘はらず、目新しい貼紙があると文盲と否とを問はず立寄つて眺めるのが一席の

【軍事】に明るいものの講義をしてゐる譯だが玉田、豐潤一帶は流石北平軍閥のお膝下だけに軍閥即ち河北宣傳隊第二大隊の貼廻した宣傳文で一杯でいろく其他振つた宣傳文が見出される、殊に新民要望と云ふ形式で（蔣委員長の統一指揮歡迎）（血戰而して歸來せる萬上將歡迎）とか貼出してゐるが住民は一向氣乘薄で後者の如きは退却敗兵に掠奪されるのを恐れた魔除けのまじないの樣なもので土民は漸く空宣傳には動かなくなつて來た彼等は實際自分を

【保護】して解放してくれるものに對しては心服の誠意を示し支那内地であり乍ら當地方の部落は、町民等が日本軍の駐屯を歡願する等一寸日本國民には考へられない珍現象を呈してゐる

留任問題には

深入りをせず

鈴木總裁藏相懇談

（東京廿三日發國通）鈴木政友會總裁は二十二日午後八時十分赤坂の私邸に藏相を訪問九時まで種々懇談を遂げたが先づ藏相より留任を決意するに至つた迄の經緯を說明自分としては健康の問題もあるため作戰貴下に對しては豫算案が成立すれば辭任する考へであると言つて置いたが、首相の懇請もあり留任して國家のため奉公の誠を盡す決意をしたから御諒解を願ひ度い

と、留任を決意するに至つた事情を詳細說明、諒解を求めたに對し、鈴木總裁よりは藏相の留任に對しては單に聽き置く程度に止め、之に對する態度については一切觸れず時局問題について隔意なき意見の交換を爲した

文相總裁を訪問

（東京二十三日發國通）鳩山文相は二十二日午後二時鈴木總裁を私邸に訪門し、藏相に關聯し自已の進退、黨として の對政府の態度を協議した

旅券査證辦事處

各地とも決定

いよく六月一日を期して

一齊に事務を開始

四月十八日外交部より發表された旅券査證規定は六月一日より實施されるので外交部ではそれぐ準備を急いでゐたがこの程完了し、査證事務官は二十五日各自の任地へ出發する事となつたるしあたり六月一日より

【開設】される査證辦事處所は安東（滿鐵安東地方事務所及安東驛構内）大連（山縣通附近）營口（稅關附近）綏芬河（舊ソ聯稅關跡の豫定）の四個所で主任者は陳道（營口）袁齋（安東）王春（大連）徐瑞（綏芬河）の諸氏である

なほ滿洲里は北滿特派員公署滿洲里辦事處がその事務を取扱ふ事で將來吉會線が全通した場合灰義洞並に山海關にも設置される豫定である右につき外交部常局は語る

旅券査證事務は六月一日より開始するが一時逆に從來の如く査證事務が

【不便】のものでなく門戶閉鎖でない事は勿論だかへつて舊時代より事務取扱が簡單となり非常に便利となつてゐる現に吉林在住の某外人は妻が京城に旅行するからと云つて旅券査證を申込み父親を獨逸から呼寄せるとて同樣申込んで來た、其他各方面よりの申込殺到し外交部通商司では暫定辦法として入滿證明書を發給し旅行者の便宜を計つてゐるが查證事務開始と共に頗る繁忙となるものと見られてゐる

東鐵買收は

蘇滿兩國間で

日本政府近く同答

（東京廿三日發國通）中東鐵路買收問題に就き外務、陸軍大橋滿洲國外交部次長間に對重協議中であつたが、一兩日中には日滿兩國の態度決定の見込めがついたので、今週中にリトヴィノフ氏に對し正式同答の運びとなら原則的

態度は左の如くである

一、買收交涉は滿洲國が應ずること

一、買收交涉は便宜上東京で行つてもよい、日本政府は斡旋するのみ

一、買收價格代金支拂ひは蘇滿間に決定すべきも日本としては合理的なることを希望すること

一、中東鐵路買收、技術的且經濟的の取引とし、政治條件を附さざること

一、ソヴエートは鐵道附屬の商工業機關、鑛山採掘權、森林伐採權等併せて賣却を提議しているので日滿側も之に應ずる筈である

石炭の濫掘

濫賣を防ぐ爲

統制機關を設置

（大連廿三日發國通）滿洲天然資源の王座にある石炭は撫順の十億噸新邱の十一億噸を筆頭、現に發見されてゐるだけでも莫大な埋藏量あり、未發見の分を加へれば優に二百億噸を突破すべく觀測されこれが開發は各種工業の原動力として重要且緊急を要するものとされてゐるが、炭坑開發は日滿統制經濟の範圍内に於てけはるべきであり、然かも濫掘濫賣の弊を避け尚國内工業としての撫順炭の現出を防ぐ爲今後の開鑛及出炭は統制機關を設置して之が統制下に行はれることゝなつた、右機關は滿洲國政府及滿洲礦其他日本側の滿洲に採掘權を有する各機關を參加せしめ出炭量輸出量につき統一協定を行ふものである

滿蒙移民に就て

（四）

年次	入滿數	増加指數	定着數	増減指數
一九二三	三四二、〇三八	一〇〇	一〇一、七四三	一〇〇
一九二四	三七八、六二三	一一〇	一七六、五六七	一七四
一九二五	四九一、九四九	一四四	二三二、三三六	二二九
一九二六	五七七、六四八	一六八	三四九、八二二	三四三
一九二七	一、〇二六、七三三	二九七	六七八、六四一	六六九
一九二八	一、一三〇、〇〇〇	三三〇	六九〇、〇〇〇	六八〇
一九二九	一、〇五〇、〇〇〇	三〇七	四六〇、〇〇〇	四五三
一九三〇	八一〇、〇〇〇	二三七	三二〇、〇〇〇	三一六

（註）入滿數の年による増減比率は滿洲及び北支部における生活脅威の程度を語るものであるが全体的趨向は若し何等の制限も無く放置する時は、滿洲の治安確保と共に移住民の增加を見る事は明かである

以下少しく此の過程を說明することによつて今後の對策に資しやう

東支並に南滿鐵道の敷設、更に帝政ロシアの租借地及び鐵道附屬地に於ける市街工場の建設、駐屯軍の消費等は滿洲に時ならぬルーブルの雨を降らし、漢人移民に强き刺戟を與へたが、引續き日露戰爭が起つた、此は一見滿洲經濟を破壞したかに思はれたが實は北滿移民誘導の一大動機となり之に依つて非戰鬪地區には、新殺な經濟活動が試みられた、又日本軍の此の地で落した金も億餘に上るであらう是等の貨幣は土着民の購買力を加へたのである、戰勝後の日本の經濟的活動は云ふまでもないことである、是等の諸現象及びその後の發展に影響した素因を分析すれば次の如くである

一、鐵道の開通等に依り、交通至便となり、且つ日本勢力の進出（註一）に依る治安の維持、對滿投資及び文化的客與等、滿洲に於ける經濟的誘引條件を增すと共に、他方、商業高利貸資本の搾取、過重な封建時代の重賦、軍閥の苛斂誅求殺買資本主義の手先に踊る官憲厄民、十匪の橫行、此等を原因とする天災の襲來、近に外國商品及資本の輸入に依る農村家内工業の急激な破壞等に基く北支經濟機構崩壞の日一日の擴大と相關聯して民族移動にも比すべき漢人移民を見たこと

既述の如く移民と共に入つた本國の高利貸資本は燒鍋等の家内工業をも支配して、低度金融資本制覇とも云ふべき城市農村搾取の支配網をはりめぐらしつつあつたが主として日本の經濟的活動に基く資本の輸入はここにも資本主義化の傾向を促進せしめた、斯くて商業資本は産業資本に轉換し、特に土着資本に依る資本家的企業は近時軍閥資本に依つて著しく擡頭して來た

又土着の商業高利貸資本家は多くは土地の（註二）所有者でもあり、小作料を徵收すると共に本來の高利貸的機能を發揮して地方農民に對する決定的な支配力を持つてゐたが、こうしたことは張家政權の決して見のがす所ではない、所謂官商の穀物買占不換紙幣の濫發な利用は一般民衆の益々擴大する犧牲を物ともせず、高利貸資本官僚との共同利害の上にかさみ行く重畳に伴つて益々强化されて行つたのである。

情報處開設

披露盛況

二十二日午後六時半より料亭暉に於て國務院情報處新設披露宴が催され、招待された各社記者五十余名列席川崎情報處長の挨拶あり齋藤氏（大滿蒙）の謝辭あつて　客寬いで十時過ぎ盛況裡に散會した

徒歩でてくく二青年が滿蒙視察
きのふ大連から新京に着く
是から奧地入り

滿洲と云へば匪賊とピンと頭に來るこの頃東京の二青年がこれはまた滿洲育ちの者でさへ身ぶるひする滿洲の原野を大連から新京までの七百二粁を三十八日間の日子を費し徒歩で踏破したと云ふ話がある二十三日早朝ひよつこり新京を訪れたカーキ色の洋服にゲートル、肩にはリユウクサツクと云ふ旅行姿に身を固めた二青年があつた、右青年は高橋予一君（三四）浦注桂太郎君（二二）で滿洲に於ける文具の現狀、及將來の販路等につき徒歩視察を思ひ立ち四月五日東京を出發大連に向ひ、十五日大連を出發道々文具に關する視察を行ひ徒歩で二十三日新京に到着したものである

□ □

兩君は日燒した顏を輝かせながら元氣よく交々語る

途中は全然何んの事故もなく至極平穩でした東京で文具商を營んでゐた爲文具の滿洲進出を計りたいと思ひ立ちやつて來たわけです、約二ケ年の豫定でチヽハル、ハルピン及熱河方面を徒步で行きたいと思つてゐます、東京で考へて居た滿洲より大分平穩無事です、新京では約十日滯在軍の許可を得て奧に入りたいと思つてゐます

發疹チブス猖獗し
鼠退治に大童
きのふ衞生司から奧地へ 防疫のため急行

露滿國境方面の發疹チブスは最近猖獗を極め、これが對策講究のため民政部衞生司から滿洲里方面に出張中であつた同司防疫科趙、王、今仁諸氏の歸來談によると

＝滿人＝よりも露人側の病狀は言語に絶するばかりで、一方浦鹽方面では患者二千五百名が小學校に收容されてゐる始末であり、漸次滿人方面にも傳染して來る形勢があるため同衞生司ではこれが對策として發病チブスの病菌を媒介する鼠の驅除に全力をそゝぐべく二十三日濕、視兩醫牧科員が鼠采一萬本を携行して綏芬へ向け急行した、同病はマラリヤ病に於けるマラリヤ蚊の如く患者との直接傳染でなく鼠の媒介によつて忽ち

＝傳染＝するもので同病の豫防は一に鼠の驅除に待つより外はなく同衞生司では今後引續きこれが驅除に努めることになつた

苦力小屋を襲ふ
間ぬけの强盜
遂に一物をも得ず

過般新京名物の强盜はその影を斷ち市內は全く平穩に歸したかの如き觀があつたが、最近又復市內各所に强盜の跳梁その度を加えつゝあり、この程新京警察署に訴え出たものゝ中二回に亘り强盜に見舞れた幾分ナンセンスじみた事件があつた市內附屬地西南方隣接

＝地點＝高岡組作業場の臭氣紛々たる苦力小屋に第一回には五月十八日いでたち物凄き六人組强盜夫々拳銃を手にして現れ、中四名は外で見張りをなし、二名は小屋に忍び込んでぐつたりつかれた苦力を叩き起し小屋の中を搜査し終ひには苦力を裸にして身体檢查迄したが相手はその日暮しの見すぼらしい苦力の事とて一物をも得ず遂に斷念して何れかへ逃走した、第二回は廿日午後七時頃又もや、この苦力小屋に二人組の拳銃所持

りやうがなくこれ又

＝諦め＝て何れかへ逃走した、届出により新京警察署では、犯人搜査中なるがその言動より見るに、この間の拔けた犯人は何れも朝鮮人と見られてゐる

滿鐵檢事區員
松林中で自殺

（大連發國通）自殺狂時代の名に背かず廿三日又もや邦人の自殺事件が起つた

大連市乃木町十八番地滿鐵大連檢事區員大塚正一（五五）は廿二日夜電話で自宅の兄に自殺する旨を傳へ、春日池奧の松林中でピストル自殺を遂げたが、同人は豫ねて放蕩のため多額の負債あり、之を苦にして自殺せるものの如く、生前の品行を恥づる遺書を持つてゐた

各學校一齊に
海軍記念講話
小林司令官を始め海軍部幹部ら出演

駐滿海軍部では來る二十七日海軍記念日を機會に軍事思想普及に努めるべく

＝當日＝小林司令官始め府の通り主腦部自ら新京市內の各中等學校並に各小學校で軍事講話をなすことになつた、即ち商業學校、中學校では駐滿海軍部司令官海軍少將小林省三郎氏、高等女學校では同海軍機關大佐德田順一氏室町小學校では同海軍中佐志摩清英氏、西廣場小學校では同海軍機關中佐清水獎氏の割當で各校とも午前八時半から凡そ一時間內外の豫定である

節婦孝子表彰
鄭文教部總長の訓詞

二十八日表彰せらる、節婦孝子に授與する鄭文教部總長の褒狀及奬品の訓詞は左の如くである

國家は人民の結合、敎化は即ち國家の職務にして、文教部は即ち國家の敎化を司る樞機なり綱常名敎は風化の根本にして綱とは君臣、父子夫妻の三綱、常とは仁義禮智信の五常を言ひ、綱常は道德、名敎は榮譽を意味す人民中の孝子節婦は何れも人生の極めて不幸なる境遇にあるか、此の境遇にあるものは必す天生の道德を有するが故に千苦萬苦を經ても其志氣を失はす自らよく之を保持し且一時の榮譽を得んと欲するが如き野心を有するものにあらず、因て國家は榮譽を以て其千苦萬苦の志氣に報ゆるなり、即ち總ての人々は其榮譽を羨み必す聞きて立ち人後に落ちざるべく、名敎の權は國家に在れば掌を反す如く容易に敎化を養成せんとするものなり

滿洲國成立以來此を以て第一次の孝子節婦の表彰となすか、各省代表は民心を翻然一變せしめ速やかに王道を進行せしめんとする文教部の用意を宜付せられたし

表彰される人々

節婦孝子表彰に關する委員會は二十日文教部總長室に於て開催褒狀及奬品の訓詞を決定したが愈よ廿八日全滿に亘り節婦孝子の表彰をする事となつたその數は次の如くである

△奉天省孝子八人節婦三一人
△吉林省 節婦 一二人
△黑龍江省 節婦 九人
△新京 節婦 二人 齊張氏 新京 眞節 郭振邦 新京 孝子

けふの斷水に御注意下さい
午前八時から午後四時まで

けふ二十四日午前八時から午後四時まで水道鐵管洗滌のため市中一般に亘つて時々斷水します

五大標語を掲げて訓練に
新京商業で決定

新京商業學校では若葉の如く健がに延び行く生徒等を如何に訓練すべきかにつき豫しより東校長齋藤敎頭を初め諸敎師相集つて協議を重ねてゐたが此程左の如く禮儀規律、淸潔整頓、質實剛健、進取勤勉、報恩感謝の五大標語を設けこれにもとづき徹底的な訓練を行ふ事に決定したので一兩日中に全校生徒に發表直に實施する筈である

訓練標語

△禮儀規律
一、服裝整備
二、禮儀嚴格
三、時間勵行
四、命令嚴守

△淸潔整頓
一、學校內外淸潔整頓
二、物品整理法の一定
三、公共物保管

△質實剛健
一、贅澤排除
二、精神緊張

△進取勤勉
一、即時即行
二、責任遂行

△報恩感謝
一、愛國愛校
二、感謝感恩
三、長者敬愛

娘々祭行き切符賣上

二十日より大屯で開催されてゐる娘々祭行切符發賣數は廿二日迄に既に六千六百二十七枚に達し、內新京より發賣したものは二十日、三百九十四、二十一日千三百九十三枚、二十二日千二十八、合計二千八百十五枚の多きに上つてゐる

中東線の南行貨物
果然、激增振り
二十二日は實に百六十一車 新京驛は益々繁昌

本月十七日より中東南部線新京着貨物列車が果然激增を來し、通常一日四十車內外のものが七、八十車に達し二十二日の如きは百六十一車に上つてゐる、これに輸送された噸數は通常の二倍、二千キロトン內外二十二日は四十七百五十七キロトンの多きに達してゐるが、これはトランジツト問題によるもので中東部線ポグラニチナヤを封鎖されるる事を懸念する爲、東行貨物は極度に激減し反對に南行貨物が殖へた事と最近大豆が一布每につき五錢値上となつた爲賣却を急いでゐる事に基くもので、大豆、木材、豆粕等が增加してゐる

善隣國民の東北震災義捐
既に五萬五千圓
本月末で締切り

滿洲國日本東北震災義捐中央委員會では三月十日以來義捐金の募集に沒頭してゐたところ五月三十一日を以て愈よ締切る事となつたが二十日現在の募集義捐金總額は五萬四千五百圓の巨額に達し過般長春座で行つた演藝收入五百圓台計五萬五千圓に上つてゐる

西廣場校修學旅行

西廣場小學校では例年の如く五六年生の修學旅行を行ふが五年生百四名は來る廿九日出發、奉天、撫順、大連、旅順方面の見學を終へ來月二日歸京に決定したが六年生はハルピン方面へ行くべく滿鐵本社へ申請中で未だ認可を得ぬ爲確定せぬが何れ認可あるものと如く來月上旬頃出發する樣になるであらうと

軍國讀本 ……（十七）……
◇……海軍編……◇
海軍行機と其性能
偵察機の任務や重大

＝偵察＝機にも艦上と水上の二種別がある、艦上偵察機は主として車輪式であつて巡洋艦以上に搭載、出發歸着共に艦上で行はれるが應急用の着水裝置も裝備してゐる。敵艦隊の動靜、敵の根據地の狀況、魚雷や潜水艦の發見、彈着の觀測を主要任務とするもので航續力、通信力。速力に重きを置き、二人、三人、四人乘等がある、無線電信や

＝發光＝信號燈で通信を行ひ、或は寫眞偵察を行つたりすると共に、敵の攻擊に對しこれを擊攘する爲め、固定機銃の外に偵察用の旋回機銃が備へてある。胴體の中から後下方へ發射し得る機銃も裝備された機もある。無線電信電話は元より、寫眞機の設備もあり小型爆彈を搭載する事も出來る。

＝水上＝偵察機は自國沿岸地若しくは艦隊根據地から出發して遠距離偵察、沿岸警戒、哨戒等、任務は大同小異で中には浮舟附水上機、大型のは飛行艇と呼ばれる、此の外小型偵察機は大型の潜水艦用と云つて、平常は艦上の格納筒に搭載され、使用する必要に直面すると直ちに組立て使用出來るものがある。一人乘で發動機は六十馬力內外、速力一〇三哩、航續時間、三時間、兵裝は無く無線電信機だけを持つてゐる。

＝攻擊＝機、此の飛行機は敵の軍艦、前進根據地の爆彈攻擊又は敵艦を魚雷攻擊するのが主要目的であつて、是にも艦上、水上の二種がある然し水上攻擊機は水上偵察機を以て是に充てるのが現今一般の大勢である。

飛行船、歐洲大戰に當つて獨逸のツエッペリン伯がツエッペリン式大飛行船を大成して海上偵察等に活用したり又是を以てロンドンの空を

＝襲擊＝したのは吾人の記憶に新なる處である。然し何分圖體が大なので浮揚力の大である特點もあるが、それだけ襲擊目標となり易い、今後の空中戰からは段々と影を失ひつつ行くのではあるまいか、航空船の氣囊に入れるのはヘリウム瓦斯や水素瓦斯である、乘員は軟式にあつては下部のゴンドラの中に硬式にあつては前方下部に立派な室がある。

（圖は海軍機の戰幕展開）

四平街より
四平街市の發展と繁榮の座談會

四平街市の發展と繁榮に就ての座談會は地方事務所、大同電氣株式會社、四洮新聞社主催の下に二十六日午後四時から左記により電氣會社三階大同會館にて開催される

中京都市四平街 市建設座談會

一、商業都市としての繁榮方法
二、工業都市としての發展方法
三、交通通信の完備策
四、特產物市場としての將來針策
五、金融市場の連絡發展策
六、都市としての市弁開發及體裁の整備
七、其の他

滿洲國野球部の陣容全く整ふ
本年度スケヂユールも決定
近く愈よ試合を開始

かねて計畫中であつた滿洲國政府內に野球チームを作る案はスポーツによる友邦との親善及剛健質實の氣風を養ふ見地から各方面より贊成され

＝急速＝に具体化し張實業部總長を總裁、戴く滿洲國野球部の誕生を見たが愈よ六月早々より次のスケヂユールにより試合をする事となつた

一、新京倶樂部と春秋二回試合を行ふ
二、滿洲野球大會に出場
三、大連滿倶、大連實業團、奉天滿倶、奉天實業團、撫順滿倶、安東滿倶を招き試合をする
四、例年大体日本よりの遠征軍五チームと試合を行ふ

なほ野球部事務所は監察院內に置き、

＝總裁＝張燕卿氏 副部長多田駿氏 副部長菊竹實藏氏 幹事長大野貞樹氏 メンバーは次の如くである

△投手、赤木格、（明大出身、監察處）柳原右一（志度商業出身、需要處）渡邊大藏（福山中學出身市政公署）松本幸郎（松山高商出身、主計處）
△捕手鈴木詩太郎（ウイスマンシン出身、中央銀行）半氏邦之（鹿兒島商業出身、國道局）
△一壘手光宗定夫（高松高商出身興安總署）
△二壘手花輪佐太郎（京都一商出身、需要處）
△三壘手赤松金吾（法政大學出身文通部）
△遊擊手松本幸一（高松高商出身、興安總署）伏見正一（志度商業出身、國道局）
△外野手水原秀明（早大出身交通部）長澤伊勢雄（松山高商出身司法部）高橋克朗（慶應出身需要處）森川格（撫順中學出身、首都警察）栗原久芳（高松中學出身民政部）監察正出拾三水原義雄

延びゆく新京
南新京驛と、もに
道路工事も進捗

滿洲國の國都建設は國都建設局の手により着々と豫定計畫に向つて進みつゝあるがこれが助力に努力する滿鐵會社は新京驛と孟家屯の中間に新驛を設けるに決定新京

＝鐵道＝事務所に其工事を命じこれまた着々準備を進め來り十月一日には營業開始の手筈となつてゐる、驛舍などは勿論假建築で只乘降客を扱ふのみであるが、ホームの築造其他の豫算數萬圓が計上されてゐる、又孟家屯驛から新京の外廓を一直線に南嶺に向け新たに開鑿されんとする國道局の道路工事は孟家屯驛附近から眼の屆く限りは既に道型が出來、バラスの撒布、スチームローラーの運轉等作業が

＝畠を＝橫ぎり丘を越へて帶狀に伸びつゝある。一方新京中央通りからこれまた一直線に首都の核心に向つて進められつゝある道路は行く手に橫たはる殷若寺の立退料の問題で行き惱んでゐるらしいけれども總局は土地收用令を適用すれば問題は解消する譯であるが、何分官仲の信仰篤き寺廟のことであるから內密に解決しそう當局はその善後策に腐心してゐるとのことである

盜難防止の臨檢

新京署司法係では最近頻々さおこる盜難事件に鑑み二十四五の兩日市內一圓に亘つて倉田主任指揮の下に全署員を動員して大々的な臨檢を行ひ盜難防止をはかる事となつた

天氣と氣溫

二十三日の氣溫最高二十度八最低十五度〇、二十四日の天氣南西の風晴れ一時くもり

日滿露三國共同委員會並に（上）

東鐵賣却問題の交渉經過

東鐵督辦李紹庚氏が四月十二日副理事長クヅネツォフ氏に手交せる書翰に於て卅日間の期限付にてロシアがザバイカル、ウスリー兩鐵道に持ち去られる東鐵財産卽ち機關車及び貨車の返還方を要求するや、ロシアは突如日本を紛爭事件の渦中におびき入れんとし、四月十六日外相代理カラハン氏は太田大使に抗議の如く、又謂停紙報とも解せられる長文の通牒を手交した。該通牒の内容は、先づ冒頭に於て

×

「日本政府は日支紛爭及び日本軍の滿洲入りの當初から屢々東支鐵道はじめソヴエート・ロシアの權益に對し何等損害を及ぼさぬ旨を誓約された事實また日本政府は事變以來最近までソヴイエート・ロシアの權益不侵害に對し責任を負ふて來た」と前言し「最近二、三ケ月以來滿洲及び日本人關係の行動は東支鐵道に於て重大なる事態を惹起し、ソヴイエート・ロシアは啻に東鐵のみならずこれ等の行動が之によつて個々の問題に亘つて紛爭を惹き起さうとする魂膽なりとし、警鐘鳴さざるを得ないこととなつた」と率直なる意思表示をなし、從ひ「日本政府の注意を促し度いのは左の諸點である」とて「(A)滿洲國官憲が東鐵哈爾賓ハルクを不法占據したこと(B)日本軍隊輸送運賃の交渉遷延(C)滿洲國日系官吏の要求により警察當局が種々の壓迫を加へ、東鐵の運行を妨害してゐること(D)東鐵東部線は匪賊の跳梁で全く混沌狀態である因に東鐵は日本政府の軍隊輸送懇請に對し同鐵道の治安恢復を名として應諾した。然るに治安の混亂今日より甚しきはない(E)返還を要求されてゐる機關車はロシア政府が米國から購入し一九一八年より翌一九一九年におよぶ支那側の對露干渉により東鐵に殘されたもので、その所有權のロシアにあることは疑を容れぬところである(F)多數の露國民は逮捕され且つ裁判もなくあらゆる迫害を受けてゐるの六點を擧げ「以上の事實はソヴイエート政府をして日本政府に對し、日本政府の與へたソヴイエート・ロシア權益尊重の誓約、その權益保護について有效なる方法をとるべきことを主張せしめることとなつた」と結ばれてゐる。

×

右通牒と同時に滿洲國政府がロシア側に返還を要求してゐる問題の機關車がロシアの所有に屬するものなることを辨證せんがための、次の覺書が手交された。

A型機關車百二十四臺は露國が嘗て米國より購入せる機關車の一部で東鐵とは何等關係をもたないものである。之等の機關車は浦鹽へ海路運ばれ同地からハルビンの鐵道工事で組立てられたが一九一八年及び翌一九一九年の支那側の對露干渉のため東鐵に取殘されたものである。右の如き事情で一九一八年に三十臺、同一九年に三十臺、二〇年に三十六臺、二十年に十七臺、合計百二十四臺取殘された證據が東鐵の書類中にも保存され、その露國所有に屬することは一點の疑ひだに容れぬところである……と。

策謀的であり、計畫的であり、ロシアが、滿洲國との紛爭にかゝはる問題の通牒を日本に寄せて來たことは如何なる意思に基くものか、またこれを契機として日露間に何等かの問題を引き出さんと企圖してゐるものかその點ほとんど窺ひ知り得ぬところであるがかゝる擧措に出でた一つの原因は東鐵問題に關し日本が滿洲國の糸を引いてゐるものだと臆測否な邪推に出發し、交渉を日本とのそれに移した方が解決の迅速を期し得るであらうと考へた結果であらう。しかし東鐵問題に日本が關係してゐると臆測したのは全くソヴイエート側の邪推である

海の外から

□鼠の驅除法令 米國西部海岸地方では最近家鼠が跋扈し始めた爲、同地方の各州では近く驅除法令を出して之を退治することになつたが、一般家庭には日本式の鼠取り器を使用せしむる由

□長靴にテレピン油 雨天用長靴の耐久力を增すには、テレビン油を塗るに限ると英國の勞働者連は暇さへあれば塗布する者激增の有樣であるが、ケチだと見るものは至つて少いと

□スヰス壁紙の改善 優秀な壁紙の世界的生産國スヰスでは壁紙が日光や空氣の爲、變色廢質する欠點に鑑み此の程溶した塗布劑を創製試驗的に使用した處成績良好であつたと

新刊紹介

滿洲評論（八七號）東亞を亂すもの滿洲統制經濟の動向建設期の經濟政策、日滿經濟ブロツクの危機、滿鐵特殊使命の發展其他一部金十錢滿洲評論社發行所大連淡路町滿洲評論社

大連時報（四十五號）東洋の大關東州内の開發と日本人、事業界滿鐵行進曲名士風柳陣次は撫順炭坑、獨立斯くして滿鐵は分解する其他一部金二十五錢大連敷島町其社

奉天商工日報（五月號）主要記事動く奉天の經濟事情奉天における各國の煙草製造業、滿洲國稅制の關稅徵收單位變更計劃、合辨事業の進展利濟公司の計劃、鐵路總局と商民の待望其他一部金五十錢奉天商工會議所

總評

俄然急戰模樣（十七）

黒頭巾評

黒「□八十四」の締ね粘りより「△二十」餘手迄にて黒一目の惜敗に終つたのであるが、これからの侵分は説明を省いて、總評に取り掛ります。

この碁は最初の布石と見るべき部分はごく僅少で、強いて言へば白（九）に右上隅の星を挾んだ處迄位のものである。

そこ迄は黒も正當に規則的に應酬した丈けであるから未だ離の餘地もなかつた。

だが黒（十）と尖んでからは俄然急戰模樣となつたのであるから多少の失策も出た譯である。

第一には黒「二十二」の切り取りである。

これあるが故に左一團の白に眼形を與へ、剩へ左下隅の黒に澁し味を生ずるに至つたのは尠なからざる損害であつた。

それから黒「三十二」と切りを入れたのは白に「三十三」と曲られて白「二十一」の方面を強化した位なもので一向に役には立たずに、黒「三十四」と打つて白に、「三十七」と拘へられて犬死に終るやうでは無念である。

黒の威力

黒「四十二」は時機尚早であつた。宜しく黒「五十四」と尖み付けるなりして（一）の白を攻めながら右邊に勢力を扶植するの策に出る方が打ちいゝのであつた。

白にこの方面を「四十三」と防禦されては中腹へ伸びた黒の威力も次第に効果を失ひかけて來るのである。

黒「四十六」以下「五十二」と後になつて白へ「五十三」と備へさせるのは惜いやうである。ちと勇敢に「五十四」と尖み付けて直に「五十三」の處へ打ち込んだら何んなものだつたらう。

恐らくは白も當惑したに相違ない。

本法であつた

黒「五十六」は「九十」と白「（三）へ尖み付けて白八十一と立つた時に黒「七十一」と高く攻めて見るなどは確に面白い手段であつた。

白「六十一」と肩を切つて來た時に黒「六十二」「六十四」と締ね粘いで白に「六十五」とたたれて黒「六十」の活力を失うたのは偉い損であつた。矢張り「六十五」と手强くドつて白を攻め立てる方が本法であつた。黒六十六はもう一路進んで六十七と夾むか或は黒「九十」と尖み付け白八十一の時「七十一」なり「六十七」なりへ夾んで行く方がより効果的であつた。白「六十七」以下の手段は惡かつた。他に何とか趣向すべき處であつた。

賞讃に値する

黒「八十四」の手で「八十六」と繋して打つたならば何んなことをしても負けられる碁ではなかつたやうだ。

それから黒「□三十六」を「□六十一」へ斜走しておけばまだ幾分の勝ちは黒にあつたのである。

それを「□三十六」と飛んだ許りに白に「□三十七」「□三十九」と封鎖されたのは遺憾の極みだつた。

だがこの碁は黒良く戰ひ最後まで優勢を維持したのは賞讃に値するのである。

圍碁新手合（一局の七）

三段 石塚行誠
五子 高橋直次

カノ一
ヲノ一
ヨノ一
ワノ二
ワノ十八
ヘノ五
トノ五
カノ十二
（九十五）の處つぐ
ヌノ十四
ヌノ十五
ホノ五
ホノ四
ルノ七
ルノ六
終り
白一目の勝

野菜相場

新京市場小賣相場表 五月十九日 「菜果之部」

種別	値段
白菜	八 四
サツマ芋	四 三
山芋	一〇 〇八
ワタナ芋内地	二〇 一五
蓮根	一六 一四
丸大根	〇六
玉葱	〇八 〇九
生姜	二〇 一二
ワサビ	五〇 六〇
玉菜	〇五 〇四
馬鈴薯	〇三 〇二
ユリ子	五〇 二五
セリ内地	一五
春菊大連	〇三
林檎	一三 一〇
大津梨	一五 一二
キーブル	四〇

種別	値段
蓮草大連物	一一 一〇
里芋	一〇 〇八
赤芋内地	一五
牛蒡	〇五 〇四
白大根「大連」	〇八 〇六
赤大根	〇六
人參	二〇 三〇
ウド	三〇 二〇
内地葱	一〇 〇八
カブラ大小	一〇
水菜同	〇八
ミツ葉大小	二〇 〇五
ワケギ内地	〇五
胡瓜内地	一二 〇五
内地梨	二五 一八
ミカン	一五 一二
西瓜	二〇

鮮魚小賣相場

種別	値段
活鯛	八五
チヌ鯛	二九
小鯛	四三
ニベ	一三
サワラ	二三
サバ	一二
星カレ	一三
ボラ	一三
コノシロ	三〇
メバル	一九
ホーボ	一二
イヒタコ	二〇
水イカ	一〇
カニ	一三
アワビ	一〇
シジミ	八
小切	一二
ウナギ	九〇

種別	値段
氷鯛	四〇
遊予	二四
鰹切	六〇
ヒラス	三六
スヽキ	二〇
グチ	一六
ヒラメ	二二
コチ	一〇
マナ	一二〇
カツ	
サヨリ	五五
フカ	一三
甲イカ	二六
イセエビ	三〇
アナゴ	二五
ハマグリ	六
カマボコ	二一
マス	三一

黑船往來

韓國載上映及上演

（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第六十九回

山の怪老人（四）

左京の一刀は、親方の膝車をさッと拂つた。

『わあッ！』

親方は、どうとその場に倒れた佛國水兵拜領の、だんぶくろのズボンが、横に小氣味よく切れて、血が吹出してゐる。

それを尻眼にもかけず、左京は血刀を提げたまゝ一氣に川岸へ駈けた。そしてひよいと向ふ岸をみると、今のさきまで視野のうちにあつた白軒とフラメの姿は、既にすやうに見失はれてゐた。

『おゝ』

背丈ほども伸びた、虎杖を分けて、膝納の澤の彼方へ逃げのびてしまつたものらしい。

アッチナイ澤の虎杖族生する路なき道を、大鄕に奥へたどつた白軒とフラメは、トマムを渉り、蝦夷松の密林を求めいくたびか道を迂回して、名も知らぬ未開の山の中腹へたどりついたところは、もう日もとつぷり暮れてゐた。

たどりついたといふが、事實は勤番所の役人たちにおひこまれこの山中でいつのまにか道を踏み迷つてしまつたのだ。夜道を遠く喧嘩泊まで落延び、そこから舟便を求めて、さらに余市へ引返し湯川の温泉に身をひそめ、白軒の偽漂發をしやうといふのがフラメのもくろみであつたが、喧嘩泊どころか、熊碓、朝里まで行かぬうちに、途方に暮れてしまつたのだ。

二人は歩み疲れて、とある欝樹の林の中で、いひ合したやうに腰をおろしてしまつた。四邊は暗くさびしく遠く海なりの音のみが、どこからか流れてくる。

『海はどの方角だらう』

白軒は、獨言つた。

『さア……』

フラメは氣のなさそうな返事。

『こゝからまつすぐ南の方向を指して進んだら海岸へ出られるかしれぬ』

『さア』

『おつ手のものは、もうあきらめて引返したらうな』

『さア……おや、夜鷹が鳴いてゐる』

耳を澄ましてきくと、どこかでトウキトウ、トウキトウ……と、哀れにも物すごく鳴いてゐる。

『このあたりには、熊もゐるだらう』

『狼だつてゐるよ』

『おや、あれはなんだらう。夜鷹でもないやうだ』

『あれ、狐です』

ふたりは、狐のなき聲に耳を傾けながら、ふたゝび押默つた。

赤楊の森葉がサラ／＼鳴つた。熊笹のうへを夜風が通つた。

『フラメ、親方は、如何したらうな』

『……』

『親方は、勤番所の役人に押へられたであらう』

『殺されたよ』

『え！おまへは平氣でそれを口にすることができるのか』

白軒は、おもはず闇の中でフラメを顧みた。

『親方たつて、このフラメだつてオキヽリュイのためなら、どんなことでもします。殺されることなんてもない……』

『しかし、おまへや親方は、なんのためにこのわしを囘護のだ。わしにはそれがわからぬ』

『フラメはねえ、和人とかうしてをりたいのです』

『だが……』

『いゝや、それだけです』

『だが、親方はそれとちがふ。親方は、なんのために、わしを逃がしてくれたのだ』

『親方は、このフラメが大切だからです。フラメのいふことなら、なんでもきく……』

『はアて、その意味がよく呑込めぬのぢや』

『……』